

風のなかの親切

—— 月曜日は台風並みの突風が吹いていました。私の自転車 が倒れ荷物が散乱し、風に飛ばされていたみたいです。私はのんきにお客様と楽しい一時を過ごし、自転車に戻ってびっくり。風の中を二人の人が私のモップを追いかけているではありませんか。見知らぬおばさんが「あなたがいない間たいへんだったのよ」。あちこち逃げ回るキッチンフィルターを追いかけてくださる男性もいました。みなさんのおかげで飛ばされてなくなったものもなく、本当に助かりました。世の中いやな事件も多いけれど、やさしい人だつて負けない位いるんだ。自転車を走らせながら、なんだかうれしくしてしみじみしてしまいました。

お客さま係の瀬川昌子さんがレンタル報告書にこんなことを書いていましたよ、と東京・中野のお店の方が送ってくださいました。強い風が出会わせてくれた、思いがけない人のやさしさ。知らぬふりで通り過ぎてしまわない人が何人もおられたのですね。ダスキンにたずさわる人みんなが、風のなかでモップを追いかけてくれた方たちのおかげでほしいと願っています。

株式会社ダスキン 社長

伊東 英章

写真・市谷 健 「何でもバランスがだいじさ」



no.420

喜びのタネまき新聞

読む人の幸せを心に願って作る

サクノさんの涙

山浦玄嗣

「ケセン語」岩手県沿岸南部の気仙地方の話し言葉にそう名付けて、三十年余りもの間研究してきた医師、山浦さん。熱心なカトリック信者で、以前から新約聖書をケセン語に訳したいと願ってきました。「ガリラヤの田舎で育ったイエスは方言で話したはず。日本の標準語訳の聖書は直訳の上、とりすました感じで分かりにくい」そう感じていたことから、ギリシャ語の原典から翻訳。還暦を過ぎての大仕事でした。じさま、ばさまが教え、伝えてくれたふるさとの言葉の温かさ、懐かしさ。今回はシリーズ最終回。ひとの心に届くことばとは……しみじみと考えさせられます。

今から二十六年前のことだ。

わたしが中学校時代を過ごした大船渡市のカトリック教会が、献堂（設立）二十五周年の記念式典をすることになった。現在は同市で開業医をしているが、当時、仙台で東北大学の医学研究所で働いていたわたしは、大喜びで懐かしいふるさとに帰ってきた。

司教さまや神父さまがたが大勢参列して盛大なミサが捧

げられたのしい祝宴となった。そのときわたしは余興をするとして壇に立った。手には、母から冒瀆（ぼうとく）だと叱られたケセン語訳の聖書の一節を握っていた。「空の鳥を見よ。かれらは播くことなく、刈ることなく、倉に納むることなきに、汝らの天父はこれを養いたもう……」慣れ親しんだ山上の垂訓がケセン語になった。

「空のクラスウ見なれ。種（たね）まぎもすねアす、稲刈（いねが）りもすねアす、秋仕舞（あきずま）アもすねア。んだどもそなだア（てん）天のお父様（ちつさま）アこれア（あづが）どオ養（あづが）ってけやんでアねアな……」

奇妙な笑いが会場からわき上がった。居並ぶ立派な司教さまや神父さまがたの前



え・中村みつを

で、自分たちの恥とする醜惡なズーゾー弁で聖書が読まれたのだ。東北人特有の、恥ずかしさと当惑から逃げるための悲しい笑いだった。でもそれはやがて静まった。会場全体を感動が包んだ。

小山サクノさんというおばあさんがいた。生粋の気仙衆だった。会が終わった時、彼女はわたしのところへ走り寄って、わたしの手をしっかりと握って、言った。

「ハルツグさん、いがったよ。おらね、何十年もこうして教会（きり）に通（あ）ってつともね、今日のぐれアイエスさまの気持ち（きもち）アわがったごどアながったよ……」

サクノさんの目に光る涙を見たとき、わ



オトこはあいきょう！
将来はふたこデビュー
鹿児島県郡山町 平川禮子

YOSHINO
PASHION
GRAND PRIX

イイ感じのあなた、
写真を送ってください。

マイファッション募集。

「顔はいいけど
お金がないの」
東京都羽村市 加藤美波



ないしょだけど
まだオムツのとき
長野県御代田町 篠崎祥吾



ビニールの音が
たまらないの
東京都 茂木貴実子

ステキなわたしやマイペットが撮れたときは「見て見て！」がやりたい。喜びのタネまき新聞は部数600万だし、載ったら田舎のおじいちゃんも見てくれるかも。1年に1回位は、応募写真でみんな大集合の表紙も作りたい。ケータイからも送ってね (詳細は7ページ)

露出度600万デビュー！

スペシャル・チャーシュー

豚肩ロース1kgの塊肉を特製タレに2〜3時間漬け込む。タレはしょう油1カップ、砂糖1と2分の1カップ、紹興酒2分の1カップ、全卵1個、赤味噌大さじ2、ごま油大さじ1、塩少々。混ぜたら、後にかけるタレの分を別の器に取り置いてから肉を漬ける。

200℃のオーブンで15分焼き、表面に焼き色がついたら焦げつかないように、アルミホイルで肉を覆い、160〜170℃のオーブンでさらに15分〜20分じっくり中まで火を通す。切り分けて、予め取っておいたタレをかける。

あつあつプチトマト

プチトマトを豚バラ肉の薄切りで巻き、塩、コショウをしてグリルで焼くだけ。お好みでタバスコを振れば大人向けのオードブルに。



とろ〜りアボカド揚げ

ジューシーな肉の旨みが絶品。茹でたチンゲン菜を添えて。和洋中と何の料理にも合うインパクトの強いおいしさです。

アボカドを2つに割り、種を取り除いたら、皮をむいて5mm幅の厚さに切り、変色しないようレモン汁をかけておく。軽く塩、コショウをふり薄めの天ぷら衣(小麦粉を多めの水で溶いたもの)パン粉の順につけ油でサッと揚げる。

揚げすぎると中のアボカドがベチヨツとなるので要注意。硬くなったフランスパンをおろしてパン粉代わりすると香ばしくて美味。



青木美代子
お料理研究家

私が外出する日の
お父さんの

夜のおべんとう

クリスマスにぴったり 美味きらきらのオードブル



たしはマリアさまに会ったような気がした。サクノさんは信仰の厚い、やさしいおばあさんだった。熱心に教会に通い、人々のために尽くした。でも、彼女は悩んでいたのだ。御ミサで朗読される聖書は、「立派な」標準語で書いてある。頭ではわかったつもりでも、そのことばは所詮は頭のことばであった。胸の中、腹の奥にまっすぐに響くものではなかったのだ。

に、彼女はどんなに悲しく思っていたことだろう。でも、自分たちのことばで語られるイエスさまのことばを聞いたとき、何の説明も解説もないのに、彼女はイエスさまの気持ちが本当によくわかったのだった。サクノさんの頬を伝ったあの美しい涙は、今日までずっと、わたしの魂を導き励ます明けの明星となっている。

彼女の慕うイエスさまの気持ちがよくわからない。そのことばに対する「申し訳なさ」

今回のシリーズ「まごころざしを育てる」は山浦玄嗣先生の「ふるさとのイエス」(キリスト新聞社)から載せさせていただきました。

ピンボーですからね、寺の経営も大変です。でも、「元気になりました」と便りが届く。それが何よりうれしくて。



病気や宗教の話はしません。「何でも言うてください」とお伝えし、見守り、ただ受け止めるだけです。

もう一つのわが家 おうち

難病の治療で上京する子と家族が、心身ともにリラックスし、経済的負担も少なく、安心して泊まれる部屋を提供してきた「おさかなの家」。東京は港区、魚籃寺の山田ご住職の並外れた善意によって建てられたこの家は、今年一〇周年。多くのボランティアと山田さんの温かさが、今日も不安をかかえた親子をやさしく迎え、見守っている。

おさかなの家は お寺の境内

浄土宗のお寺、魚籃寺の境内にある「おさかなの家」。ここは国立がんセンター、慶応大学や慈恵医大などの大きな病院に30分以内で行ける距離。先端医療を受けるために上京する親子を一泊千円ほどで受け入れている。

おさかなの名は地名から。三田の魚藍坂を登っていくと中腹に赤門があり、門をくぐると右手にごく普通の二階建てがある。

この赤門からしてなんとも優しい。境内も門もこじんまりして、いかめしい格式張った感じは微塵もなく、「おかえり」と言われているように温かい。都内6つのお家の中でも、いちばん一般家庭に近い雰囲気だと言われる。それもこれも、ご住職の山田智之さん（60歳）のお人柄と、お目にかかった瞬間に感じた。



門の左の通用門にあったことばと、「ようこそ」と迎えてくれる観音様たち。やさしいお顔だ。

建て替え費用の工面に 托鉢に出て

「うちは小さい寺で檀家も60ほど。住職がほかのお寺の手伝いをして出稼ぎに出る位でお金は一円もなかった」と山田さんは笑う。

3年ほど前におさかなの家の建て替え話が持ち上がった時、山田さんは托鉢に出た。銀座や渋谷などの街頭で、活動を紹介するパネルを掲げ、街頭で募金をつつた。「快適な部屋に泊まってもらうためには、自分も動かなくちゃと思いましたね」修学旅行の中学生やおばさんが小銭を入れてくれた。「みなさんのおかげ」と思った。

でも費用の3千万円には遠く及ばない。銀行から借金し、敷地の一部を墓地にして販売し、返済した。2年前完成した家は5部屋。お風呂2つトイレ4つ、それにキッチン。

「何かやれ」って 背中を押されたんです

93年の夏、寺の敷地内に貸していた住宅がもどってきた。お定まりの借地権をめぐるトラブルはあったものの、思いがけずすんなり片付いた。再び貸してもよかったが、その時、「お釈迦様が何かやれっておっしゃっているんだなと感じたんです」

山田さんは、いつか見た難病の子と親の支援施設ファミリーハウスの新聞記事を読み出した。いろいろ調べ図書館にも行ってみたが見つからない。「国立がんセンターなら分かるかもしれないと寄ったのが始まりでした」

住宅を改築してスタート、6A小児病棟のお母さんや理事さんに見に来てもらい、使いやすいうように手直した。

東洋大学福祉学科を卒業後、会社勤めを5、6年してお寺へ入った山田さん。港区のボランティアの講習を受けて難病の子のりハビリを手伝ったり、お寺では幼稚園も経営した。「もともと子供好きだったですね」



ボランティアの方に囲まれた山田さん。若者は学生の小山健太さん、金さやかさん。後列中央の沖さんは「6Aの卒業生ですよ」とおだやかな笑顔でお話してくれた。



ここ10数年の活動については、「病院近くのわが家」(自由国民社 ☎ 03-3543-5547)に詳しい。絵本「やさしさの木の下で」も発行されている。ファミリーハウス連絡先は7ページにあります。

運営は檀家やボランティアが掃除などを受け持ち、電化製品、米やトイレットペーパーに至るまで寄付が寄せられる。「どうにかやっています。みんな頑張ってくれます」

お母さんたちの 励ましあいの場に

おさかなの家のキッチンに大きなテーブルがある。難病の子のお母さん同士、夜遅くまで話し込むこともあるという。

「お母さんは子供の具合が悪いともうダメです。暗い顔でうつむいて、何でうちの子がと」そういう時は、何でもない事でも針みたいに突き刺さる。だから山田さんもボランティアの人たちも挨拶するだけでムダなことは一切言わない。「ひたすら受ける姿勢だけです」

でも治る可能性があるとなると、次第に元気を取り戻し、顔も上を向いて来る。悩みを話すようになる。山田さんはそういう時も聞き役に徹する。同じ悩みを抱えた母同士が出会い、話し合い、「自分は孤立していない」と感じれば、乗り越える力となる事を知っているからだ。「お母さんが元気になると、子供も元気になってくるんですよ」

外泊許可が出た時、通院治療、また定期検診の時にもおさかなの家は使われる。子供どうしが遊んで仲良くなることも。冷蔵庫やテレビがあり、野菜をきざむ音がトントンして、なんでも揃っていて、まるで家みたいだ！

「もう一つのわが家」の手引書にはこうある。安心して住んで下さい。ゆきとどかない事もあるかと思いますが、なんでもご相談下さい。



おさかなの家の前で。

難病治療の子と母を支える宿泊施設 NPOファミリーハウス



ファミリーハウスは難病の子と親を支援する目的で、病院近くに用意される滞在施設。この活動は91年、国立がんセンター中央病院の6A病棟から始まった。高度医療が受けられる病院は完全看護のため、上京する家族は病院に泊まれない。お母さんは子供の命を案じながら自分の宿泊場所を捜し、入院が長期にわたると安い宿を求めて転々とする。ホテルのチェックアウト後、公園や病院のロビー、デパートの中を落ち込んだ気持ちでウロウロ。山手線を回って時間をつぶす姿に医師や看護婦さんも心を傷めていた。そんな頃、米国からきたシスター、キャスリンさんがマクドナルドハウス(エバンズ先生が設立)を紹介。

「この支援施設を日本にも」と6Aの家族が「母の会」を作って呼びかけたところ、小児科医長の大平睦郎先生(今年逝去)が自ら理事長に就任。親、医師、看護婦、支援者たちが結集し、一体となって推進した。現在では「おさかなの家」のような施設が都内7カ所37室、設立支援活動は更に全国に広がっている。

ほ



ほ



え



み



の



ひ



ろ



ば



元氣ですか

栃木県矢板市 桜井エミ子(旧姓 高橋)

鏡の前、紅筆で下唇の線を引く時いつも思い出すY子ちゃん。何一つ取り柄のない私の下唇の形が好きと言ってくれた幼なじみだ。

小学一年で新潟から転校してきた彼女は家が近く、六年間一緒。中学は別になったが、毎日会い、就職してから出勤前に我が家へ顔を出した。

夜は二人で商店街をブラブラ。昔はそれだけで不良少女と言われた。彼女は幼い頃に母を亡くし兄夫婦と暮らしていたが、明るく行動的で、消極的で内向的な私とは正反対。男友達ができると必ず私に会わせ、ひばりの歌が大好きだった。

当時は大雪の日でも登校は下駄ばき。下駄の齒につまる雪をかいては、半べその私に履かせてくれた彼女のやさしさ。自分も同じだったのに。

その彼女が二三歳の時、一歳の男の子を連れて行方不明になった。そのうち連絡があるだろうと待っていたが、あれから四〇年経つ。彼女が本当に苦しい時、何もしてあげず、力になれなかった。ずっと待っている私。読んだらぜひ連絡して！

——何もなかったけど親友がいた幸せ。



おかあさん

静岡県蒲原町 田中正子

母は私が小学校六年の冬、脳卒中で倒れて半身不随になり、それから十一年ほど不自由な身体で私の毎日の出来事の真剣な聞き役だった。

結婚式に出席できない母に、花嫁姿を見てもらいたくて、母の部屋で着付けてもらった時は、不自由な手で目頭を押さえていた。

「私がお嫁に行ったら、おかあさん困るね」

「正子がむこうの両親を大切にすれば、必ず私の身に戻ってくるから大丈夫。がんばりなさい」

そう言ってくれた母は、私が二三歳、あちこちの庭先で沈丁花の花が香る三月、亡くなりました。今、五五歳になって、あの時のおかあさんの気持ちがすごく分かります。

——子の喜びは自分の喜び。おかあさん……。



少年時代

山口市 森田秀男

私は七三歳。中年になった二人の息子が幼い頃の話だ。遊びに出て帰らないが、ちよつとならないだろうと、私たち夫婦は家に鍵をかけて買い物に出た。日中は暖かかった日差しも傾いてくると急に寒くなってくる。帰ると玄関の前に兄弟二人が立っており、あまりの様子にびっくりした。

兄はオーバー、手袋、防寒帽子を弟に着せ、自分は靴下まで脱いだ薄着で震えていた。

また、長じて小学生となつて健康診断の日、弟が検便を忘れ「どうしよう」と兄に相談した。兄は弟のためにこっそりと一かけらを出して、弟に持たせたという。

そう言えば、私にも似たような体験があった。幼い頃、鉄橋を渡っていた時、後ろから列車がぼく進してきた。その音と怖さに立ちすくみ、目をつむったが、瞬間、先に渡り終えた兄が引き返してきて、私の手を引き、間一髪で無事にすんだ。

なつかしい少年時代。兄弟はありがたいものだ。

——鉄橋 映画のスタンドバイミーみたいですね！



きずな

新潟県新津市 早川和雄

二歳下の妹がいます。父は他界して母一人。私は四八歳。幼い頃、働いていた父母に代わり、出来るだけ妹をかばったつもりです。小学校低学年の妹は中途半端で頼りなくデタラメで、翌日の教科書を揃えてやりランドセルに入れていました。あげくの果ては、夏休みの宿題帳まで二人分やり、父母が多少知恵遅れかと心配したほどでした。

妹は二〇代で娘二人を連れて離婚。私はまたもヤキモキしましたが、その後再婚し幸せに。妹とは考え方は違いますが、同じ時代に生き多少問題のあった家で育った(悲しいかな父が酒乱でした)同志でもあり、きずなは一生切れません。中年になったおじさんとおばさん。もう一頑張りしたら、皆でのんびり温泉にでもと思っています。

——「タシ」も欲しい、心配性で世話やきのおにいちちゃん。



遠い昔

福島県長沼町 阿部亮子

夫とテレビを見ていたら、ラブラブの女の子が、絵入りの日記一年分を彼氏にプレゼント！

「へえ、純情というかマメというか、今どき居るんだねえ、こんな若い子も」

「あんたも昔はそうだったよ。いろいろもらったし。ほら、手作りのカレンダーとかくれたでしょ」

と夫から意外な一言。「へえっ？」と驚く私に落胆の色を隠そうとしない夫が「はあ」とため息。

「どうせ、そんなもんだよね。俺はずっと大切にとつてあるのに…」

自分の作った物ははつきり思い出せないが、大切にしまっていてくれた夫を、ちょっと見直した日。四一歳の私だって昔は純情だったのよ。

——ハイ、ごちそうさま。



元は選手

三重県志摩市 堀口幸子

昨年、大阪の友人宅へ遊びに行き、繁華街で飲んでほろ酔い気分で終電に乗りました。週末で、お酒が入っているため座席で居眠りする人が多い中で、吊り輪に両手でつかまっていた中年の男性。

何を思ったか、ふいに、器械体操を始めちゃったんです。吊り輪にぶら下がったままリズムカルに懸垂をしている。と思ったら、あるうことが、でんぐり返り。スゴい妙技をママに披露してくれました。

他の乗客は見てみぬフリか、見慣れているのか（まさか、ネ）全くの無関心でした。

でも私は目がテン！の状態。ひよつとして、あのオジサン、若い頃は元選手。もしかしてオリンピック選手かもと考え込んでしまいました。

——道中、退屈しないでよかった。

あなたのお便りや写真をお寄せください

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。

どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名、お客さま係名をお忘れなく。

紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先。

〒108-0072 東京都港区白金2-6-8

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室

電話 03(5488)1372

e-mail : koho2@mail.duskin.co.jp

●7ページのNPO法人ファミリーハウスの問い合わせ先は

〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-19

☎03(5825)2931

ホームページ <http://www.familyhouse.or.jp>



千葉県松尾町

池田智景

散歩とリンゴジュースに目がない8ヶ月。名前は「ゆう」です。

ちょっと広告のことですけど

いちばんイヤ？レンジフードの掃除

女性がおっくうに感じる年末掃除の場所のワーストワンはレンジフードとか。でも、お掃除の極意は汚れをためない事につぎのだから、フィルターをいつもきれいにしておけば、大掃除の時期になっても怖いもの知らずになれます。交換日がきたらざっと汚れをチェックして、いつもきれいに保つのがベストですね。

お手入れの前に必ずプラグを抜く

電源プラグをコンセントから必ず抜きましょう。安全のため、コードを引っ張って抜いたりしないこと。また、ぬれた手で抜き差ししないように気をつけましょう。感電やケガのもとです。

お手入れの時は厚手の手袋をする

銅板の切り口や角でケガをすることがあります。厚手の手袋を必ずしましょう。前板を取り外すような場合は、落下させないように、しっかり気をつけてください。ふだん手伝わないお父さんにも、レンジフードのお掃除はオトコの義務と心得てもらいましょう。

ちょっと拭くのに便利なクロス

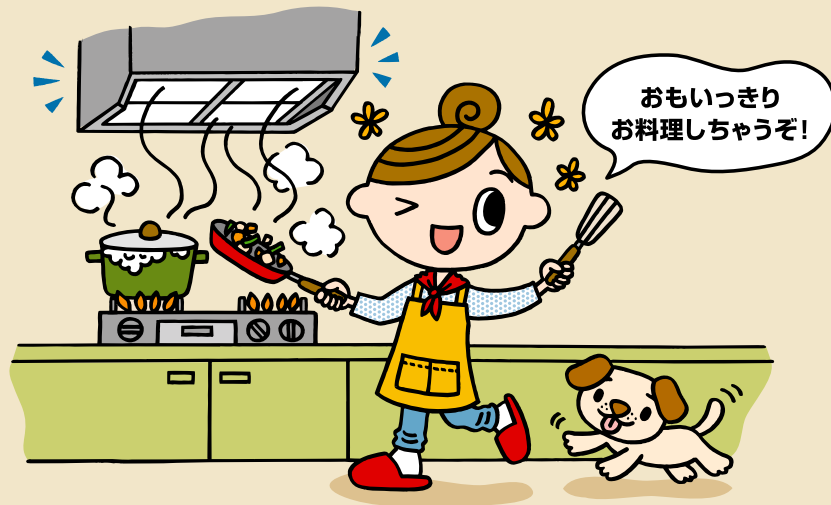
フィルターの交換をする際とか、揚げ物をしたあと、ちょっと便利なのがクリーナークロスキッチン用。クロスだから、フードの板面でも液ダレせず、手軽なのが気に入っています。(東京都八王子市藤原珠美)

ホームページでも

「喜びのタネまき新聞」がご覧いただけるようになりました。ホームページのアドレスは
<http://www.duskin.co.jp>

Q. 主婦の方が“手をやく家事”として、まっ先にあげたのが、キッチンのおそうじ。では、そのなかでも、いちばんの強敵は？

**ダスキン豆知識
クイズ**



A. ベタベタ、ギトギト。レンジフードの油污れ！

キッチンのめんどなおそうじ第2位のコンロ、第3位のグリルをおさえて、みごとトップの栄冠に輝いたのが、レンジフード。実際、ベタベタ、ギトギトの油污れを目のあたりにすれば、誰だって途方にくらてしまいますよね。そこで おすすめしたいのが、ダスキンのレンジフードフィルターです。お料理の時にでる油煙をしっかりと、たっぶり、キャッチ。フード内の汚れを、最小限に防ぎます。もちろん、難燃加工で、安全性も万全。おそうじのテーマを考えたら、汚れる前に汚れない工夫、ですね。



あなたの喜ぶ顔が見たい。

汚れる前に、汚れない工夫。

ガラス繊維タイプ。

油料理の多いご家庭に。ガラス繊維&難燃加工だから安全です。

おそうじの負担をカット。

フード内のベトベト汚れ、油だれを防止して、おそうじをラクに。

不織布タイプ。

油料理の少ないご家庭に。両面、難燃加工の、厚手のフィルター。

ニオイがこもる心配なし。

通気性が良いので、油煙をしっかりととりながら、空気はスムーズに通します。



**不燃性能試験
に合格!!**

ダスキンのキッチンフィルターは、
(財)日本建築総合試験所の
不燃性能試験に合格
＜試験番号：ⅢC-02-39＞

ダスキンレンジフードフィルター

ガラス繊維タイプ
4週間定期補充料金(1枚につき) **577~1,260円<税込>**

不織布タイプ
4週間定期補充料金(1枚につき) **378~840円<税込>**

アルミ枠 ※初回取付時に必要
お客様使用料(1枚につき) **630~2,100円<税込>**

※お客様のレンジフード、換気扇フードの種類によって、複数のアルミ枠・フィルターが必要になります。

※商品サイズなど、詳しくはお客係にご相談ください。

※アルミ枠・外枠は、ダスキンのフィルター専用が開発されたものです。

※危険ですので、ダスキン以外のフィルターをセットしないでください。

※ご利用中止時には、アルミ枠・外枠をご返却いただきます。

※この用紙は再生紙を使用しています。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行：広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒108-0072 東京都港区白金2-6-8

TEL:03-5488-1372 FAX:03-5798-7523

お客様からいただいた個人情報はダスキングループ企業、および加盟店の範囲でのみ利用させていただきます。

また後日、新商品や新サービスのご案内をさせていただく場合があります。プレゼント配送などのために個人情報を外部委託する際は、弊社の厳正な管理の下で行います。

個人情報の開示・訂正・削除を希望される場合は下記フリーダイヤル、お客様相談窓口までお問合せください。

0120-100100 www.100100.co.jp